

市の大きな事業について、 現在の状況をお知らせします

市では今までにさまざまな事業を実施し、その多くは事業が終了した時点で、概要を広報川越でお知らせしてしました。しかし、長年にわたるような大きな事業については、市民の皆さんに対する行政の透明性を図り、説明責任を果たすうえで、事業の進み具合を報告することが重要です。

今回は、ことしから工事が本格化する「(仮称)新清掃センター」と、基本計画が策定された「なぐわし公園」について紹介します。

*「(仮称)川越西公園」は、四月一日(火)から「なぐわし公園」となります。
問い合わせ：広報室・TEL224-5495

熱回収施設の工事が始まりました (仮称)新清掃センター

事業の目的

現在、市内のごみは西清掃センター・東清掃センター・リサイクルセンターの三つの施設で処理しています。このうち昭和五十三年に稼動した西清掃センターでは、可燃ごみと不燃・粗大ごみ、そしてびん、その他プラスチック製容器包装などの資源ごみの処理を行っています。しかし、稼働からほぼ三十年が経過した

ため、施設の老朽化と焼却炉の燃焼効率低下などが生じています。

近年では、ダイオキシンなどの公害対策や、最終処分場の確保が困難であることなどを踏まえ、新しいごみ処理の方法が求められてきました。(仮称)新清掃センターは、西清掃センターの代替施設として、ダイオキシンなどの排出を抑えてごみを衛生的に処理するだけでなく、ご

みの資源化も可能な施設として整備を進めています。

事業の内容

同センター内には、次の施設が整備されます。

熱回収施設

可燃ごみを焼却する施設です。一日当たり二百六十五トンの可燃ごみを処理できます。ごみを焼却する際に発生する熱を使って、発電したり温水として利用したりします。発電した電力は、同センター内の各施設に供給し、余りは電力会社へ売ります。温水は、同センター内の各施設や「なぐわし公園」の温水利用型健

康運動施設などで活用します。
リサイクル処理棟

資源ごみなどの再資源化を行う施設です。一日当たり、不燃・粗大ごみを九・三トン、びん・缶類を二二・四トン、その他プラスチック製容器包装を二一・三トン、合わせて五十三トンのごみに破碎・選別・圧縮などの処理を行います。処理後に回収された資源は、ストックヤードなどに一時保管したのち、リサイクル業者などに引き渡されます。

草木類資源化施設

せんてい枝などの草木類を資源化する施設です。現在、造園業者などから排出されている草木類は、そのほとんどを焼却処理しています。この施設は、草木類を破砕し木質チップにすることで、再利用を可能にします。また、このチップを細かくすりつぶし、半年ほど発酵させると土壌改良材になります。木質チップと土壌改良材は、希望する方に配布する予定です。

啓発施設

ごみ問題に関する啓発や体験学習などを行う施設です。ごみの減量を促す展示コーナーや情報コーナー、リサイクルを体験できる工房などの設置を予定しています。ごみとして出された家具や自転車の再生・展示・販売も行います。ごみの発生抑

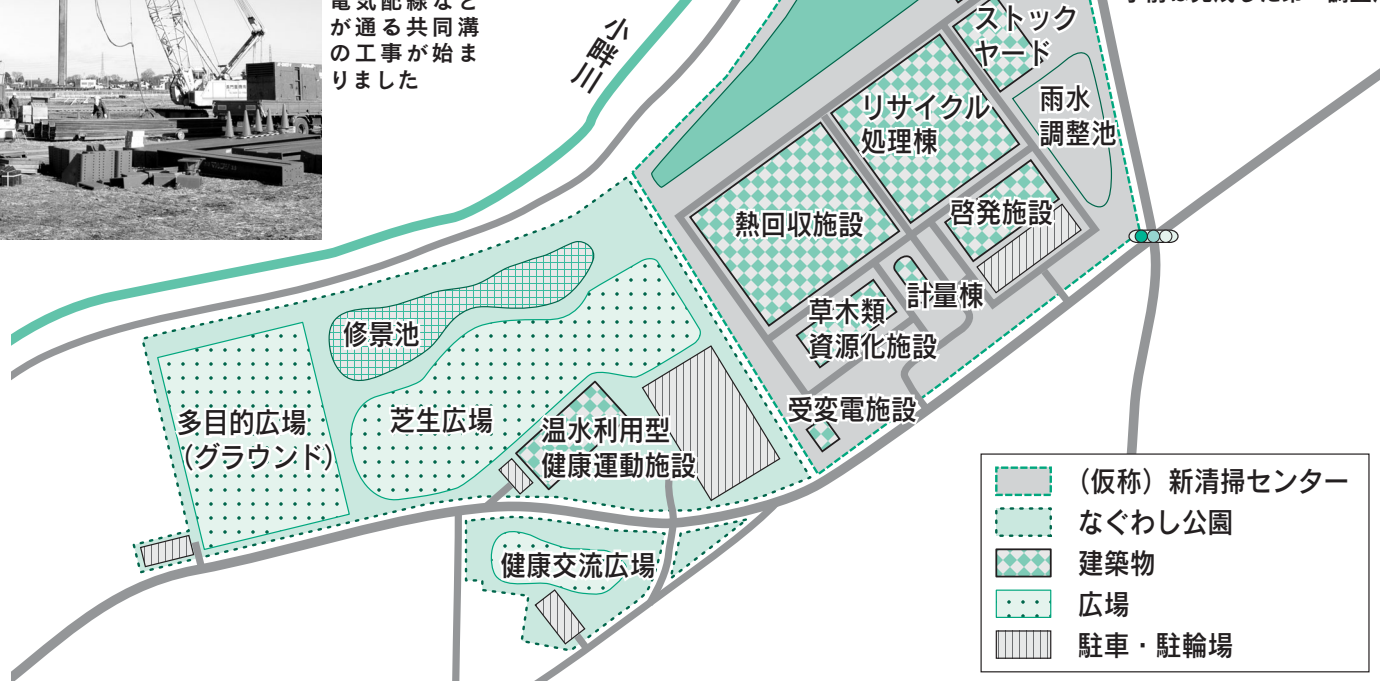


(仮称)新清掃センター なぐわし公園 基本計画概略図

(仮称)新清掃センターでは、電気配線などが通る共同溝の工事が始まりました



精進場橋から見た(仮称)新清掃センターの敷地
手前は完成した第一調整池



制や資源化に関する啓発活動を通して、環境学習を推進します。また、同センター全体を管理する事務室は、ここにあります。

これらの施設のほか、ごみの重さを量る計量棟、ごみ収集車の車庫棟などがあり、同センター全体で調和のとれたデザインになるよう計画しています。また、敷地内は「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」に基づいた緑地の確保や、調整池による周辺地域の雨水対策も行います。

事業の効果

老朽化した西清掃センターに替わって、同センターが稼働することにより、最終処分場の延命化を図ることができます。また、天然資源の消費を減らし、環境に配慮した「循環型社会」の形成を進めていくことができます。今後も引き続き、ごみを

減らし、資源回収を促進して、ごみの適正処分に努めます。

現在の状況

熱回収施設は、昨年二月に市議会の議決を経て契約を締結し、現在は一部の工事に着手しています。リサイクル処理棟は、昨年九月に市議会の議決を経て契約を締結し、現在は詳細な設計を行っています。その他の施設も、工事の契約締結に向けた手続きを進めています。施設全体の稼動については、平成二十二年四月を予定しています。

工事の際は、周辺道路などの安全確保だけでなく、騒音や振動などにも十分配慮します。皆さんのご協力をお願いします。

問い合わせ

新清掃センター建設事務所

TEL 234-0530

基本計画が策定されました なぐわし公園

事業の目的

「緑と水と健康をはぐくむ、さわやか空間の創出」をテーマとした公園です。広さは約八・三ヘクタール

あります。

(仮称)新清掃センターの熱回収施設から発生する、熱エネルギーを有効利用する温水利用型健康運動施設